

全国連合退職校長会



会報



巻頭言

魅力と創意ある

事業・活動

副会長（九州地区） 山田 稔

新元号「令和」の時代の幕開けとなった元年度もまもなく終わりを告げようとしている。この令和元年度は沖縄県にとって特筆すべきことが三つあった。

一つ目は、本県退職校長会が平成元年3月24日に結成後30周年を迎えた節目の年度であり、二つ目は、本県4度目の九州地区退職校長会協議会沖縄大会の開催の年度となったことである。

さらに三つ目に、筆舌に尽くしがたい出来事として、沖縄の歴史・文化の象徴であり、沖縄のシンボルとも言える世界遺産首里城が昨年10月31日に炎上、焼失したことである。令和元年度九退協沖縄大会の大会要項の表紙を飾り、琉球王国時代の政治機能の中枢で、県民の心の拠り所とも言える首里城の突然の焼失は誰もが言葉を失う衝撃的なものであった。現在、国レベル

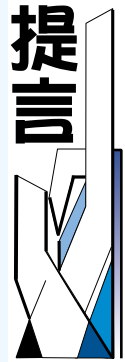
での再建、復旧・復興に向けた気運が高まり、本県内外からの支援の輪が広がっている。

ところで、退職校長会の課題の一つに会員の減少問題への対応がある。今後、少子化に伴う児童生徒数の減少による退職校長数の自然減、中途退会者の出現、現職校長の退職後の再任用・再雇用、来るべき定年延長への移行等様々な要因による新規加入者減等による会員の減少が予想される。このことは退職校長会の安定的な事業・活動を推進する上で大きな課題であり、その対応が迫られている。その解決に向けては、賛助会員制度等を含め現職校長や関係機関・団体との一層の連携に取り組むことが重要であるが、まずは何よりも全国各地区退職校長会自ら魅力と創意ある事業・活動と組織の活性化に取り組むこと

が肝要ではないか。

本県では、魅力と創意ある事業の一つとして「善行児童生徒表彰」に取り組んでいる。本表彰は平成11年度に開始して以来令和元年度で21年になる。この表彰は、児童生徒の学校、家庭、地域社会における感銘を与えるあらゆる善行活動に対して表彰することを通して、豊かな心を育む「心の教育」を推進することを趣旨としてスタートし、令和元年度までの実績では、個人283名、100団体の児童生徒が表彰されている。本表彰はその後の児童生徒の学校・社会生活や進路選択の上でも大きな励みになっている。

今後、AIやIoT、5Gなど高度情報化社会、デジタル社会が進展し、学校でもデジタル教材の普及・活用による知識・技能や情報活用能力の育成が進む一方で、令和の時代の持続可能な社会の担い手である児童生徒の夢や希望を育み、知・徳・体の調和のとれた育成を図る上でも、汎用性のある豊かな心や創造性の涵養を図る「心の教育」を推進することも重要である。



先生達を守りたい

副会長 (東海北陸地区)

川合俊平

今、時代の急激な変化の中で、学校教育が大きく変わろうとしています。「アクティブラーニング」による主体的な問題解決能力を高める授業改革を始め、道徳の教科化、小学校の英語や新たなプログラミング教育の導入など、めまぐるしいまでの変革が押し寄せています。学力調査の結果に一喜一憂し、「いじめ」「不登校」は増加し、SNSや子どもの問題行動も深刻度を増しています。中核となるべき中堅教員の激減で、長年培ってきた教育技術の伝承ができるか不安でなりません。ブラタックと揶揄される学校現場に、「働き方改革」の対応策が模索されていますが、果たして実効ある

成果が期待されるのかこれも心配です。教員採用試験の受験者が大きく減少していることもこれらの実態を反映したものでないのかと思うのです。全連退

は、教員の定数増こそ解決策の第一歩だと要望を続けています。が、難しいのが現実です。未来に責任を持つ教員の仕事をもつと大本から見直すことが必要だと思います。余りにもご都合に過ぎる施策が多すぎると思うのです。疲弊している現場教員のため息が聞こえてきます。

我々が出来ることは何か。まずは、学校の良き理解者として、教員の悩みに共感し、学校を応援し、手助けしていくことではないのか。我々の思いを行政に市民に訴えて応援者を増やしていくことではないのかと思うのです。

昨年「One Team」が注目を集めました。我々教育界ではずっと古くから共有されてきた精神であり、この困難な時代に、改めて我々も一肌脱ごうではないかと思うのです。

地域人材としての学校支援

副会長 (四国地区)

藤田繁治

例えば「花はかなしい」という言葉がある。ここでは、主語は花ではない。日本語は常に、かなしい(愛らしい)と感じる対象との間に「私自身」を介在している。ソルボンヌ第3大学での日本語の講義の思い出を、そして、日本語の奥深さを、彼はそのように語りました。だから「外国語を日本語に訳すのは非常に簡単だ。しかし、日本語を外国語に訳す作業はとても難しい。」とも。

県立学校を退職後、現在勤務している学校では、毎月1回のペースで講師をリレーで繋ぐ講演会が開催されています。冒頭の講演は、地元在住のフランス人翻訳家を迎えてのものです。後日、講師からメールがあり、学校の前を通り、講演の空気をの良さを思い出します。上から

の目線に聞こえるかもしれませんが、『まともな日本人を育てる場所』だな、と感じます。」

翌月は、6か国での海外生活の後、地域商店街の活性化に取り組む喫茶店店主。更に、地元新聞でコラムを担当する女性旅行家と続きます。そして、生徒が元気をもらい、生きがいを見つけるためのヒントを得ることを目的としたこのような教育活動は、正に、継続した地域人材の活用により成り立っています。退職校長会が展開する事業には、多様なものがあり、これまでも学校教育の振興・充実発展のために、大きな役割を果たしてきました。

だとすれば、学校における地域人材の活用は、経験豊富な人材の宝庫として、退職校長会こそ大きな役割を果たす責任と可能性を持っている。

全連退副会長として、各県退職校長会の特色ある活動を知り、そのような思いを強くしております。



近畿地区

期 日 10月25日(金)
会 場 アバローム紀の国
出席者 70名

令和元年度近畿地区協議会は和歌山県が担当して開催しました。午前中は、開会行事・研究協議・研修会を行いました。

会長あいさつ、来賓には宮崎和歌山県教育長、富松和歌山市教育長がご臨席され、ご祝辞をいただきました。ありがとうございました。最後に全連退会長代理の田中総務部長のあいさつがありました。

【研究協議】

本年度は「世代をつなぐ組織の円滑な運営」の協議題で京都府と和歌山県が意見発表し、他の四府県は紙上发表しました。京都府の「今後の組織の活性化に向けて」の項目で、「校園」という肩書や立場から外れ

たとはいえ、長年にわたって学校教育にかかわってきた経験を活かして、それぞれの地域でさまざまな形で学校や地域の教育支援活動が進められるようにしたいものであると結んでいます。和歌山県は、各支部から集めたアンケートをもとに考察して「世代をつなぐ」には①新会員の確保②世代間のバランスのとれた運営組織③幅広い世代の参加する魅力ある事業展開の3つの条件を満たすことが必要であることを報告しました。

次年度の協議題を「入会促進の方策と魅力のある事業の推進について」に決定し、協議を終えました。田中総務部長より「三省庁大臣へ提出した要望書」と教育行政の動向で懸念される課題について本部報告がありました。次に会場移動の都合で引継式を行いました。

研修会では「和歌山の四季」の写真をスクリーンに写し前副会長中井澄明氏が語ってくれました。次に三木佐文理事の日本舞踊「千代の松竹梅」のあでやかな舞い姿は参加者を魅了しました。午後は、懇親会でした。

東海北陸地区

期 日 11月7日(木)
8日(金)
会 場 岡崎ニューグランドホテル
出席者 39名

愛知大会において重視したのは、守り而言えば「組織の強化・活性化」、攻め而言えば「学校・地域に対する支援活動」である。とりわけ組織力の根幹に関わる「新入会員の確保」と、退職校長会の矜持と誇りを創出する「学校・地域支援活動」は、先行き退職校長会の要諦にもなってくる。「組織は数・組織は人・組織は継統」の命題に迫っていかなくてはならない。

一日目は、川合東陸連絡協議会長、橋本誠司全連退常任理事等の挨拶に始まり、右記の二題について、具体的な取り組みを報告し合った。各県とも切実な問題として日々格闘しているだけに、終始熱心な報告・質疑が取り交わされた。

特に後半のボランティア活動

については、多彩な形で貢献している姿とともに、他者への奉仕だけではなく、会員自身の生き甲斐としての在り方、さらにはボランティアとしての安全を確保する「保険」の問題等、組織としてどう取り組むべきかが課題として浮き上がった。

最後に全連退に対して、会員の福祉の増進についての取組、年間紀要の配布の見直し、斬新な『会報』の在り方、本部役員の人選等について要望が出された。橋本常務理事は個々の課題について丁寧に対応された。

二日目は、「教育視察」を設定した。徳川家康公所縁の大樹寺・岡崎城址、さらには八丁味噌蔵を見学し、岡崎の伝統文化に触れ、全日程を終了した。

なお、特筆されるのは、協議会後の「懇親会」や「教育視察」において、「ボランティア活動」の実際の姿を参加者に紹介していったことである。日々、学校・地域に貢献している仲間の雄姿から学ぶものが多かった。

中国地区

期日 10月24日(木)

25日(金)

会場 ピュアリティまきび

(岡山市)

出席者 60名

大会主題

「地域や学校とつながる

退職校長会」

第一日

【研究協議Ⅰ 実践・提案発表】

1 鳥取県『生きがいにつながる学校・地域への支援・貢献活動の推進』

2 広島県『子どもの居場所づくりと「地域人」の育成』

3 島根県『地域・学校とつながる安来市退職校長会』

『現・退職教育懇談会三十五年の歩み』

4 山口県『結成五十周年を迎えて新たな一歩を』

『参加したくなる「総会並びに研修大会」の企画運営』

県や支部の組織として、あるいは個人として、様々な形で学校・地域へ支援活動が押し進められている実態が発表されたり、教育講演会や総会・研修大会に参加したくなるような「工夫」がされたりしている発表があり、大変参考になった。

第二日

【研究協議Ⅱ グループ協議】

8人グループを編成し、各協議を2グループで協議した。

《協議題A》

会員の生きがいにつながる活動

《協議題B》

退職校長会組織の拡充

《協議題C》

チーム学校づくりの支援

各グループとも和やかな雰囲気の中、活発な意見交換がなされ、参加者のつながりが増え、深まった。そして、令和2年度鳥取大会での再会を約束して会を閉じた。



さらに高みの組織を目指す

千葉県退職校長会

会長 佐藤 美小生

政令指定都市、千葉市退職校長会(800人余)が分離、独立した後でも4000人を超える会員を擁しており、また数年は増加する見込みである。この組織にいかにか魅力を持たせ、充実させるかが執行部の課題である。

年度初めの定期総会に始まり、22の地区から代議員が集まり、1年の計画が決定される。正副会長、監事、常任理事が執行部として総会決定にしたがい活動を進めている。

本年度は年2回の会報発行、また、各地区の魅力を生み出す特色ある活動や退職後の再任用等の実態調査をし、情報提供をした。

行事としては「叙勲受章祝賀会」、また県内各地の名所旧跡などを訪ねる「研修会」で水戸

徳川家別邸の戸定邸を見学した。また、エンタテインメント行事を企画し、次年度にはさらに魅力を増す新たな福祉行事を計画している。

学校現場への働きかけとしては定期的な退職校長会との懇談会で現状の情報交換、教育支援のあり方などを協議している。県教育委員会に対しても県の教育充実を目指して幹部職員との協議や要望活動を行っている。

組織の充実と発展を期し、特別委員会を設置し、例年以上に諸会議の充実を目指している。正副会長会議をベースに常任理事会、専門部会、地区会長会、理事会などで意識を深めてきた。

今、千葉県が抱える課題の一つは千葉市との共栄、共存の施策である。千葉市の全連退職離脱は一大事であり、全連退には政令指定都市独立の動きに真摯に向き合い、新たな秩序を生み出してほしい。それが実現しないと千葉県の組織のあり方にも、その方向に大きな決断が迫られてこよう。

「改革」と「課題」に思いを

長野県退職校長会

会長 本間 信

長野県退職校長会は、昨年度創立40周年記念総会を行った。40周年記念を迎えるにあたりいくつかの大きな改革を行ったので、4点について述べる。

一つ、長野県退職校長会総会は今まで第1回から39回まで長野市（北信地区）で行ってきたが、第40回総会は松本市（中信地区）で行った。南信地区会員の参加も増え、大変好評であり盛況のうちに終えた。今後、長野市と松本市で交互に開催することにした。

二つ、総会での講演会の講師を会員にお願いすることにした。これは、財政難のおり経費の節約を考えたことと、会員の中に素晴らしい研究が続いている方が大勢いるという点から決定した。すでに3人の講師による講演会が実現した。40回総会で講演いただいた桐山紘一先生は、今年度の全国連合退職校長会総

会の講師として講演された。長野県の取組が高く評価されていると思う。

三つは、各支会への福祉研修費補助金は「一律3万円」としていたのを「会員人数補助Ⅱ一人あたり100円＋8000円」と「下限額補助Ⅱ最低2万円」に変更した。会員数の多い支会と少ない支会とのバランスがとれ、各支会の福祉研修が一層充実した。

四つ、教員の非違行為が報道等で大きな話題になる中で、現場の校長先生方を励ます意味も含めて「校長先生方へのメッセージ」を全県小・中・特別支援学校の校長先生方に、各支会で届ける活動を平成25年度より実施した。

さて、このようないくつもの改革の上に、課せられた課題は何かと考えたとき、まず校長としての経験を生かした「学校現場の応援団」の取組と会員の福祉厚生の充実と発展であり、それをどうしたらよいかを考えていきたい。

ワンチーム（連携・協力）を、

ゆとりでの会議から

大阪市 教育みおつくし会

会長 高橋 修

本会は、昭和37年に設立され、名称は市章にちなみ「教育みおつくし会」と決定されました。

「教育みおつくし会」は、大阪市立の退職校園長の会です。平成28年度まで「支援学校」が含まれていましたが、府に移管されました。また、高等学校も数年後には府に移管される予定です。

活動は十分な話し合いで

総会は年1回の開催です。本部役員会（年12回会議）は、毎回、各幹事会の取組状況・会費の納入状況の確認を行っていきます。第一幹事会（年10回会議）は、学期に1回、本部役員と各校園長会会長、そして教育委員会との教育懇談会を実施していきます。それをもとに「要望書」を作成し、教育委員会に提出し

ています。第二幹事会（年10回会議）、会誌「教育みおつくし」を年2回発行し、会員に本会の活動状況を知らせています。会員相互の「心」の繋がりとなっています。第三幹事会（年6回、会議）、福利厚生行事「日帰りバスツアー」を中心に活動しています。

各部会の活動

「楽しみませんか」の部活動には、美術部・囲碁部・ゴルフ部、そして女性文化交流会などがあります。なかでも美術部は会員の作品展を一般市民にも公開しております。

各部の参加者は大いに楽しく取り組んでいます。しかし、各部の取組が「平日の開催」のためか、参加者が限られてきて「後継者不足」となっている部もあります。

大阪市では、ここ数年にわたって「都構想」問題があります。今後も学校現場はもちろん、本会にも影響があると心配です。

組織の活性化に向けて

兵庫県退職校長会連盟

会長 坪田 勝彦

本会は3団体の連合体である。

- ・ 県小学校退職校長会
- ・ 県中学校退職校長会

・ 県公立高等学校退職校長会
各組織の充実発展が、目的を同じにしている本会の活性化につながると考えている。

本会単独の事業としては、次の4点があげられる。

- ① 総会と懇談会：年1回の総会の後、懇談会を実施
- ② 連絡会：3組織の会長と幹事による連絡調整(年3回)
- ③ 県教育委員会との連絡協議会出席 3組織本部役員
県教育長 義務教育課長
高校教育課長 特別支援教育課長
- ④ 近畿地区協議会への積極的参加↓令和2年度は大阪大会

次に、その他各組織における活動についてふれたい。

- ① 地区・支部の活動活性化に向けた活動の推進

・ 学校支援活動

(中) のじぎく人材バンク

(高) 人材活用講師一覧

(小) 縁故学校との連携交流

・ 地域教育活動への参加

・ 親睦活動：総会後の懇親会、地域の歴史探訪や趣味のクラブ・ゴルフ大会・グラウンドゴルフ大会など

・ 福祉活動：慶弔活動

・ 研修活動：新入会員の集いや総会時に実施

・ 活動的な組織：積極的に若手会員や女性会員を役員に登用

② 現職校長会との連携

③ 広報活動の推進

会報発行：読みやすい会報、役立つ会報、的確に情報が一人一人に届く会報

各組織共に、入会促進や会費納入、魅力ある事業の構築等の課題があるが、今後とも「会員でいてよかった」と思える活動を目指していきたい。

設立三十周年にあたって

広島市退職校長会

会長 光原 達夫

広島市退職校長会は平成二年に設立され、令和二年で三十周年を迎えます。本会は会員六百名余の小規模な組織ですが、区会や委員会などの諸活動は他県の退職校長会に引けを取りません。九つある区会は、それぞれが総会・懇親会・現職校長との交流会・研修会など盛りだくさんの行事を行っており、そのための役員会を頻繁に開催しています。委員会は叙勲・広報・福祉・研修・教育支援の五つの委員会が、それぞれ目的に応じた年間計画を立て活動しています。こうした取組には本会の先輩達が会の在り方について、知恵を持ち寄り工夫し積み上げてきた歴史があります。

本年度は教育支援委員会において、学校への「教育支援者リスト」を広島市と学校をつなぐ「広島市教育委員会LANシス

テム」に掲載して頂く取組を始めました。各学校で全教職員が学校教育に援助できる退職校長の教育支援者を検索し選べるようになりました。

さらに本年度は、現職の校長会に退職校長会の代表が年二回参加できるようにお願いし、退職校長会の活動意義や目的、実情等について話しています。それを通して現職校長に退職校長会への理解を深めてもらい、さらには会員の増加を図ることを目指しています。

三十年という歴史は、他県の退職校長会の歴史に比べるとまだまだ浅い歴史ではありますが、このような一つ一つの取組を通して着実に成長し、広島市の学校教育のさらなる発展に寄与できればと思っています。

私たちは三十周年の節目の年に巡り合うことができました。これまでの三十年の歴史と伝統の上に立ち、さらなる発展を願って、次の四十年に夢を繋ぎたいと思っています。

— 6 —

地域に支えられる学校から、 地域を支える学校へ

島根県退職校長園長会
会長 山田 忠男

我が県は公立の幼小中高特別支援の園長・校長の退職者で構成され、退職後我が県を居住地とした方も含め正会員の方が近年は1200人と、現職員からなる準会員40人からなっている。また地理的には島前・島後の隠岐諸島と東西に二百キロになる山陰海岸からなっている。そして以前の県人口は百万人近くあったが現在は七十万人を割っている。その様な状況で最近取り組んでいる三点を紹介します。一つ目は年金の受給年齢が上ったこともある事等から新入会員が減少している。以前は先輩後輩の關係で入会者数をかなり維持できたが今は難しい。そこで極力学校現場及び地域の活動にいろいろな機会を通じて出かけ現役世代と絆を深めるよう努めている。

二つ目に我々の組織が楽しいものでなくてはならない。全県十七支部を五つのグループに分け順番にそのグループの世話で研修会を開いている。その地域で勤務経験をしたのに今はじめて知ることが結構多い。今年は奥出雲町で開いた、砂鉄↓斐伊川↓おろち↓伐採↓棚田↓仁多米↓日本刀↓製鉄↓どじょうすくい↓安来節↓鉄製品出荷↓北前船↓等々。どんどん関心はつきない。またこの地域が今年は『日本農業遺産』に認定され、次世代に対してはふるさと教育を実践し子どもたちは誇りを持って成長し、大人たちを勇気づけている。

三つ目に島根県は毎年11月の第一週を教育週間とし3日には県教育委員会といっしょになり「しまね教育の日フォーラム2019」を開いた。テーマは、学校・家庭・地域の協働による「島根を創る人づくり」である。「ふるさと教育」や「課題解決型学習」を基礎とした、生徒の主体的な社会（地域）との関わり（連携）について中高生が発表した。確実に学校現場が変わりつつある事を実感している。

生きがいづくりと地域貢献

大分県退職校長会
事務局長 淵野 政昭

本県退職校長会は、昭和41年に結成し、54回目の総会を迎えました。会員数は漸減し、現在2340名で組織、郡市単位に23の地区があり、本県教育の振興に寄与するとともに、会員の親睦と福祉の増進をはかることを目的に活動を積み重ねていきます。

本県退職校長会の最大の特徴は、「生涯現役」と「学校支援の輪の拡がり」を念頭に、地域社会の一員として充実した活動の姿を情報交換する場として、毎年秋に、「地域活動懇談会」と銘打つ研修会を開催しています。これは、県内を6つのブロックに分け、「趣味・特技を生かした活動」、「地域住民としての活動」、「教育の日推進部会」の3分会を設定し、それぞれの郡市の持ち味を生かした提案から、有意義な研修の場とな

っています。本年は、日田・玖珠大会が設定され、多くの会員の参加の下、充実した生きがいづくりへの参考になる提案に接することができ、また、地域社会の期待にこたえて行動することの大切さを感じるとともに、生涯学習への貴重な示唆を得た場ともなりました。

一方では、他県と同様だと思われませんが、会員の減少・その影響への対応という課題も抱えています。また、再雇用・再任用の幅が広がる反面、退職校長会で活躍する人材の高齢化・若年会員の参加の減少という負の面も顕著になってきています。本県では、数年前から、新規会員の100%入会、退会者0を合い言葉にし、有効策を模索しているところですが、計画通りにはいかぬものの、一定程度の成果も見られ、継続的な取組の大切さ、高齢化への工夫した活動の有り様を考える必要性を感じているところですが。

令和2年度 文部科学省予算案

—— 初等中等教育局関係の概要 ——

会計部長 三上 裕三

政府は令和2年度の教育関係予算案を決定しました。

以下、主として初等中等教育局関係予算のうち教職員定数改善等を中心に、その概況を報告します。

〈文部科学省初等中等教育局財務課資料〉

《義務教育費国庫負担金》

令和2年度予算額 1兆52221億円（対前年度+21億円）

- 教職員定数の改善 +82億円（+3726人）
- 教職員定数の自然減等 ▼86億円（▼3925人）
- 教職員配置の見直し ▼43億円（▼2000人）
- 教職員の若返り等による給与減 ▼4億円
- 人事院勧告による給与改定 +72億円

学校における働き方改革や複雑化・困難化する教育課題への対応のため、教職員定数+3726人を改善
新学習指導要領の円滑な実施のため、教職員定数の改善、専門スタッフや外部人材の配置拡充、業務の適正化など一体的に推進

(1)学校における働き方改革 計 +3341人

◆ 教員の持ちコマ数軽減による教育の質の向上

◆ 小学校専科指導の充実 +1000人

小学校英語教育の早期化・教科化に伴う、一定の英語力を有し、質の高い英語教育を行う専科指導教員を充実

◆ 義務教育9年間を見通した指導体制への支援 +2201人

子供が切磋琢磨できる学習環境の整備とともに、小学校高学年における専科指導に積極的に取り組む学校の支援

◆ 学校運営体制の強化 +40人

(2)複雑化・困難化する教育課題への対応

計 +385人（再掲除く）

◆ 教育課程への対応のための基礎定数化関連 +315人

（H29年3月 義務標準法改正による基礎定数化に伴う定数の増減）

- ・ 通級による指導 +426人
- ・ 初任者研修 +39人
- ・ 自然減等 ▼229人
- ・ 日本語指導 +79人

◆ いじめ・不登校等の未然防止・早期対応等の強化

+100人（再掲）

◆ 貧困等に起因する学力課題の解消

+50人

◆ 「チーム学校」の実現に向けた指導体制の基盤整備（養護教諭・栄養教諭等） +20人

◆ 子供が切磋琢磨できる学習環境の整備

+201人（再掲）

（統合校・小規模校への支援）

復興特別会計・震災に起因し厳しい教育環境下に置かれている

児童生徒のための学習支援等の加配措置 +711人

（以上が義務教育費国庫負担関係）

《専門スタッフ・外部人材の拡充》

公立学校の教育活動で左記のような取組を行うサポート
スタッフ（非常勤）の配置に要する費用の1/3を補助

○スクールカウンセラーの配置充実 48億円

・スクールカウンセラーの全公立小中学校への配置

(27500校)

・いじめ・不登校対策のための重点配置

(500校)

・貧困対策のための重点配置

(1400校)

・虐待対策のための重点配置

(1000校)等

○スクールソーシャルワーカーの配置充実 18億円

・スクールソーシャルワーカーの全中学校区への配置

(10000中学校区)

○補習等のための指導員等派遣事業 62億円

(1)学力向上を目的とした学校教育活動支援 (32億円)

児童生徒一人一人にあつたきめ細かな対応をするため、教師

に加えて学校教育活動を支援する人材の配置を支援

(2)スクール・サポート・スタッフの配置 (19億円)

教師の負担軽減を図るため、学習プリント等の印刷などを行

うサポートスタッフの配置を支援

(3)中学校における部活動指導員の配置 (11億円)

部活動の適正化を進めている教育委員会を対象に、部活動指

導員の配置を支援、広域的に人材確保をするための交通費の

支援（新規）

《新時代の学びを支える先端技術の活用推進》

4・5億円 (2億円増)

新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業等

《教育課程の充実》

読解力等の学力向上のための取組の推進、理数教育の充実のた
めの総合的な支援等 29億円 (1億円増)

《情報教育・外国語教育の充実》

小・中・高を通じた情報教育強化事業、学習者用デジタル教科
書の効果、影響等に関する実証研究等 14億円 (3億円減)

《道徳教育の充実》

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援、道徳教育アーカイブ
の整備、道徳教科書の無償給与等 42億円 (微増)

《Society5.0に向けた人材育成》 8億円 (2億円増)

新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業、WWL(ワ
ールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業等

《虐待・いじめ・不登校対応等の推進》 71億円 (2億円増)

いじめ対策・不登校支援等総合推進事業等

《幼児教育の振興》

幼児教育推進体制の充実・活用強化事業、幼稚園の人材確保支
援事業、幼稚園教育課程の理解の推進等 43億円 (1億円増)

《キャリア教育・職業教育の充実》 3億円

将来の在り方、生き方を主体的に考えられる若者を育むキャリ
ア教育推進事業

《少子化に対応した活力ある学校教育の推進》 24億円

へき地児童生徒援助費等補助金 (23億円)

《切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実》 25億円

福利厚生情報
全世代型社会保障の展望
 全世代型社会保障検討会議
 中間報告概要
 生涯福祉部 鴻田 好通

各分野の具体的方向性等

一 年金

年金改革では、厚生年金が適用されるパートの範囲を広げること、無年金、低年金の人の減少によって年金財政を安定させることなどを柱としている。

(1) 受給開始時期の選択肢拡大

現在、60〜70歳で選択可を60〜75歳で選択可とする。

(2) 厚生年金（雇用者年金）の適用範囲の拡大

従業員10人以上の企業は2022年から、51人以上は2024年からとする。

(3) 在職老齢年金制度の見直し

現在、60〜64歳月収28万円超と、65歳以上47万円超を、一律47万円超とする。

二 労働

高齢者の就労促進により、社会保障の支え手を増やす。

(1) 70歳までの就業機会確保

① 雇用による処置

ア 定年廃止

イ 70歳までの定年延長

ウ 雇用終了後も70歳まで引き続いて雇用を確保

エ 定年後又継続雇用終了後再就職の実現

② 雇用以外の処置

定年又は継続雇用終了後創業（フリーランス・起業）する者との業務委託契約を締結

中途採用・経験者採用促進

新卒一括採用中心の見直し、通年採用による中途採用・経験者採用の拡大

兼業・副業の拡大

フリーランスなど、雇用に よらない働き方の保護

高齢者の就業機会の拡大

三 医療

(1) 医療提供体制の改革

高齢化による需要増大と支え手減少などの環境変化に対応

(2) 公的保険制度の在り方

① 後期高齢者の自己負担割合

現在、75歳以上の窓口負担原則1割を負担能力に応じて1・2・3割にする応能負担に、22年度までに実施予定

② 大病院への患者集中を防ぎ、

かかりつけ医機能の強化

現在の400床以上の病院から200床以上に対象を拡げる。

四 予防・介護

介護保険制度改革の検討中

○保険者努力支援制度の強化

○持続可能性の高い介護提供体制の構築

以上が全世代型社会保障制度改革案の骨子である。今後の検討会議での検討と国会での審議を注視していきたい。

なお、全世代型社会保障検討会議は、議長内閣総理大臣、以下官房長官、国務大臣5人、学識経験者9人で構成されている。

本年1月20日、第201通常国会（会期6月17日まで）が召集された。政府は、この国会に労働・年金・介護の改正法案を、また秋の臨時国会に医療改革法案を提出する方針を固めている。

国会議員への陳情

令和元年度臨時国会終了後、12月17日に「教育振興」「教育の日の祝日」に関する要望書を

持って衆参両院の議員会館を訪問し、文部科学大臣 萩生田光

一、副大臣 亀岡偉民、上野道子、衆・参文部科学委員会委員

及び歴代の文教関係議員の方々(29名)に陳情を行いました。

教育振興に関する陳情内容は次の通りです。

次代を担う子供たちの健やかな成長は、すべての大人たちの

願いであり、子供たちが全国どこに生まれ、どんな家庭に育つ

たとしても、等しく良質な学校教育を受けられるようにするこ

とは、私たち大人、そして国の責務です。

今、学校教育は、働き方改革の推進、新学習指導要領全面実施への対応等の真只中にあり、

すべての子供たちにきめ細かい行き届いた指導と教育の質の向上を図るためには、教職員の定数改善が不可欠であり、喫緊の課題です。就いては、左記の事項を要望します。

一 義務教育標準法の改正に伴う第八次教職員定数改善計画の策定、義務教育国庫負担率

二分の一への復元並びに新学習指導要領の円滑な実施に向けた条件整備

○すべての小学校の「英語科」指導、理科、音楽、体育、図

画工作、家庭などの専科指導、プログラミング教育に専門的な指導力のある教員の配置

○「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を積極的に推進するための教員研修の充実

○コンピュータや情報通信ネットワーク、デジタル教科書等を活用するために必要なICT

T環境の整備促進

○特別支援教育、英語科の指導ICT教育などの実践的指導力を重視した教員養成の充実

二 多様な人材配置により「チーム学校」を充実し、「学校における働き方改革」の一層の推進、教員の勤務環境の適

正化

○教員の長時間勤務の解消、学校における業務改善の促進

○スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置促進

○教員の事務作業等をサポートするスタッフや部活動指導員の配置促進

三 教育界に優秀な人材を得るため、人材確保法の堅持とともに教員の養成・任用・研修の改善と免許制度の改正、教員の職務の特性に見合う処遇改善

「教育の日」の祝日化について

では、全連退として平成10年以降、広く国民の間に「教育振興の気運を高め、国民がこぞって教育の振興を期する日」として各自自治体に働きかけを行い、その結果として現在、全国36都道府県、191市区町村で制定されていることを報告しました。我が国が文化国家として誇れる「教育の日」を世界に先駆けて制定し、教育の振興と平和に貢献できることを願っております。



地方の会報紙より



「福岡県退職小学校校長会

会報」第118号

合氣道の稽古を

コツコツと続けてきて
はや35年

久留米市支部会 重富 實雄

私は3年前、左の腎臓を47歳の息子へ移植して頂きました。人生には、上り坂、下り坂、そして、まさかの坂があると言われています。わが家に、その「まさかの坂」がやってきたのです。

このようなドラマが用意され、おやじの出番がこの歳でやってこようとは、びっくりポンでした。

「息子にもう一度、生きる勇氣と希望を与えられるなら…」とドナーになる決断をしたのです。決断はしたもの、本当に74歳の腎臓が息子に新しい命を

吹き込むことができるのか？半信半疑でした。それがなんと大丈夫だったのです。腎臓の菩薩様が「自信を持ってドナーになりなさい。」と囁いてくれたのです。両手両足の菩薩様、五臓六腑の菩薩様は、ご存知だったんです。私が無理せず、無駄な動きをせず、ムラなくコツコツと合氣道の稽古に精進していたことを…。

この時ほど、合氣道で「氣心体」を練り続けてきたことを嬉しく思ったことはありません。私がこの歳で息子に腎臓をプレゼントできたのも、合氣道の稽古をコツコツと続けてきたお蔭だと只々感謝の念で一杯です。合氣道様々です。合氣道万歳

私が退職した後も、淡々と充実した人生が過ごせているのも、42歳の時、合氣道に出会えたお蔭です。合氣道は、健やかな体と康らかな心を作ってくれる最高の武道だったのです。合氣道を始めた頃は、身体もガチガチで合氣道の準備運動も

慣れるまで大変でしたが、指導される師範の姿勢に憧れ、私も黒帯を締め、袴を穿きたいという強い思いで懸命に頑張ってきました。

合氣道の稽古は1時間です。最初の15分は、準備運動でゆっくりゆっくりと体をほぐして、その後技の稽古に入っていきます。

技は「固め技」「投げ技」「投げ固め技」があります。合氣道は「吾勝のの心(自身に打ち勝つ)」を修行の第一義としてますので、試合はありません。「仕手(投げ)」と受けを交互にやり、投げたり、投げられたりと楽しく汗をかいていきます。

合氣道は、老いも若きも、子どもも女性も稽古できる武道です。喜寿を迎えた今も、腎臓が一つになった今も週三のペースで稽古をさせて頂いています。本場に有り難いことです。少し宣伝になりますが、久留米道場は、今年開設40周年を迎

え、記念演武会を開催します。今、その大会会長として、会員70数名の先頭に立ち、楽しく、思い出に残る大会にしていきたいと老体にムチ打って、準備を始めているところです。すこやかな人生に万歳！合氣道に万歳！ 合掌



福岡県退職校長会会報

「碧窓」第93号

マカロニ先生

越前地区 真柄 二郎

再任用で週に三日、小学校に通っている。低学年のクラスに入ったとき、私の名札を見ながら「マカロニ先生や。」とニヤニヤするやんちゃんな男の子がいた。

私を試すように何度も言ってくるが私は無視を決めこんだ。近くの女の子が「変なこと言ってますよ。」と言いにきたが「先生の名前をきちんと呼べない人の話は聞こえないんです。」と返しながら、その男の子を正面

返しながら、その男の子を正面

から見つめた。

すると、ニヤニヤしていた顔が急に変わり、真面目な顔になって「まかせんせい。」と呼ぶ。すかさず「〇〇君、ありがとう。ちゃんと名前を呼べたねえらいなあ。」と頭をなでた。それから授業が終わると、その子はずっと私のあとを金魚のふんのようについてきた。次の時間からは必ず「真柄先生が来た。」と声をかけてくれる。可愛いものだ。

子供との対応は毎日が緊張の連続だ。担任ではないので人間関係は簡単には築けない。誠実に一人の人間として対応することを毎回心がけている。現職の頃と比べて、より丁寧な言葉遣いをするようになった。

一ヶ月経つとそんな私を待っていてくれる子も出てきた。再任用として第二の教師人生は始まったばかりだが、まだまだ辞められないと思う。



香川県退職校長会

「会報」第26号

地域で生きる

香川 石川 恵美子

退職して間もないころ、地域の婦人会の先輩3人がそろって家に来られた。「婦人会に入って活動しませんか。」私は、在職中に校区の婦人会の方たちにはいろいろ世話になっていたので、即座に「仲間入りさせてください。」と承諾した。ところが、総会の役員改選で、副会長の指名。のんきな私は予想もしていなかった。

それから早10年。地域のことは何も知らなかった私だけれど、さまざまな活動に参加してきた。校区のふれあい祭りでおでんを販売したり、小学校の校門でのあいさつ運動、保育所やこども園の子どもたちと野菜の苗を植えたり、おだんごづくりで交流。小学生と学校周辺のクリーン活動。青パトやスパーの見回り、交通安全キャンペーンや振り込め詐欺防止キャンペーン、防災

炊き出し訓練、高齢者への配食サービス等々、さまざまな地域の活動を婦人会として担っている。

そして、今みんなが進めようとしていることは、地域に基盤を持つ婦人会だからできる見守り活動である。近所の子どもたちの登下校時の声かけや見守りと、高齢者への積極的声かけである。昔は当たり前だった近所づきあいも、今は希薄になってきている。《子どもや高齢者に声をかけましょう。みんなで見守り見守られ》をキャッチフレーズに、取り組みの輪を広げていきたい。



「群馬県退職校長会たより」

第79号

やさしい心を育てたい

高崎支部 深澤 和子

るのが、地域の公民館と小学校での読み聞かせです。

公民館での読み聞かせは月2回。子どもたちも忙しくてなかなか来てくれないのですが、幼児も含めて楽しく活動しています。大人の利用者（水・木・金の午後開館）からの希望も聞いて、図書の購入にも関わり、予算内で話題になっている本をみつけるのも楽しみです。

小学校の読み聞かせは、木曜日の朝15〜20分間、先生方打ち合わせの時間にさせてもらっています。低学年から3年生にまで広がってきて、今年からは年数回ですが、6年生にまで広がりました。読み聞かせを受けた子どもたちが5年生にまで育ちました。読み手は地域の協力者と保護者15名余です。それぞれの得意分野を生かして絵本、紙芝居、語り等をしています。

「2年3組です。読み聞かせをお願いします。」と当番さんが迎えにきて教室に案内してくれます。子どもたちにとってこのお迎えがとっても楽しみな

だそうです。教室では、子どもたちが中央に座って待っていてくれます。お当番さんの「これから読み聞かせを始めます。」

「はい！」と元気な声で読み聞かせが始まります。

私は、「中尾町から来た深澤おばあちゃんです。」と一言自己紹介をして読み始めます。子どもたちは目を輝かせ生き生きと反応しながら、楽しんで聞いてくれます。歌があると一緒に歌ってお話の中に取り込みます。

季節や行事にマッチしたものや、温かい心や思いやり、平和へのメッセージ等を子どもたちに伝えられたらと思っています。来年のバリリンピクを控えて、もし目が見えなかったら、もし耳が聞こえなかったら、どんな感じかな、運動をするなんてことが出来るだろうかと考え、感じながら読み進めています。子どもたちがものすごく喜んでくれて、しっかりした態度で聞いてくれる事を嬉しく思い、毎回楽しみと喜びを感じている読み聞かせです。

千葉県退職校長会



「会報」第85号

私の健康法

夷隅郡市 吉野 梓楼

「私は、脳梗塞再発からの生還者です。」と言うと、何を大袈裟など叱られそうですが、再発から六年経過した今、驚くほど快復し、何とか人並みの生活をしています。

治療して下さった医師も驚くほどで、半ば呆れた顔で、毎回診察して下さいます。

退院して家庭でも真剣にリハビリに取り組んでおりましたところ大学時代の友人から、脳トレとして川柳の創作を勧められました。現職時代から、国語教師のくせに短詩型は大の苦手で、相当ためらいもありましたが、昔から何でもチャレンジ好きの私、ここは素直に友人の勧めに従い、まずは五七五という形式になじむようと、朝に夕にノートを広げては、必死に川柳らしき

ものを詠みました。

それから苦節およそ五年、友人の力も借りながら猛特訓、やがて千葉日報柳壇などにも投稿するようになり、やっと入選の喜びに浸れるようになりました。全く気分爽快、大病をした気持ちなど、どこかへ飛んでいってしまいました。

それからは、寝ても覚めても暇さえあれば、家族も呆れるほどに、ただ、川柳、川柳の生活、第三の人生の生きがいともなりました。「人生は夢中夢中の積み重ね」という句も詠みました。そんな折、隣町御宿の有名な方から町おこし事業の一つとして、絵付き川柳展の開催のお話をいただきました。

跳び上がるほど驚きました。駅前の会場には多くの知人、友人、教え子、同好の方が見学に来て下さり、身に余る激励の言葉をいただきました。まさに脳トレ万歳です。体調もめきめき良くなってまいりました。重い病気をした自分が自他共に嘘と思えるようになりました。最近

では自分の健康づくりのために書きためた資料を使って健康川柳を創作し、親しい友人などに図々しくも送り届けています。

役所の方に見せたら話の材料にしますという言葉もいただけました。なじみのクリーニング店などでは、店内に展示してくれています。歳とった今の私に出来る唯一のボランティア活動かなとも自負しています。人生百年時代、みんな仲良く健康でが今の私の最大の願いです。川柳なら笑いながら学べます。笑いこそ健康増進の妙薬、自らも含めて今後とも生きていく限り続けていくつもりです。



岐阜県退職校長会会報

「彩雲」第189号

まん丸丸く

岐阜市支部 舟橋 和宏

秋晴れ、久々の鉄道旅。岐阜から静岡へ、そして身延線で甲斐岩間駅にて下車。向かうは、山梨県身延町で開催された「生

誕三〇〇年記念木喰展」である。

木喰翁は、円空翁と同様に日本各地を巡り、庶民と触れ合いながら数多くの仏像を彫った江戸時代のお坊様。円空翁の作と違い、その多くの木喰仏は微笑みを湛えている。十年前、翁の「生誕二九〇年展」をたまたま目にし、衝撃を受けた。愛らしい表情に、眺めているこちらは、何ともホツとしてくるのだ。その夏、現存する生木の立体仏三体が観たくて、山口県各地を巡ったことを思い出す。

なぜ微笑みなのかは、翁の和歌が教えてくれる。「まるまるとまるめまるめよわが心 まん丸丸く丸くまん丸」：翁自身の心以上に周りの人々の心をも「まん丸丸く」したいとの願いが、翁の彫る仏像の微笑みに現れているに違いない。

さて、六十歳を優に超えた私の心は、自身にも、周りに対しても、丸どころか楕円にもほど遠い。十年ぶりの展覧会に接し、自身を見つめ直すよき秋の旅となった。



富山県退職校長会

会報「高志路」第118号

OFF・ON生活を楽しむ

滑川 平井 利枝子

「平成」から「令和」へと時代の節目を迎えた二〇一九年春、あこがれの「毎日が日曜日」の生活を楽しむことになった。定年退職と同時に仕事を終えるつもりだったが、引き続き週三日ほど仕事をするので、多少は緊張感をもって過ごしていた。あれから四年、そろそろ肩の荷を下ろしたくなり、ついに毎日が日曜日の生活に入った。

時間から時間で働く生活から解放されまっ先にしたことは、目覚ましをセットせずに寝たこと。学生時代からの必需品であった目覚まし時計だが、時間のしぼりがなくなるとたん毎朝四時ごろには目が覚めるようになり、目覚まし時計は不要となった。そのかわり新たに仲間入りしたのがラジオである。毎日

が日曜といっても頭の中まで休業状態になっては大変（チコちゃんに叱られそう…）と、いつでもどこにいても様々な情報を得ることのできるラジオに耳を傾けるようになったのだ。ラジオは映像がないぶん、想像しながら楽しんで聴くことができる。六十半ばにして初めて知ること

も多く、思わず「へ、そうなの!？」と驚いたり感動したり、笑ったり涙したりの毎日である。令和元年、私は「目覚ましOFFでラジオON」の生活を始めたところである。



愛知県退職校長会

「会報」第40号

広く、浅く、ゆつたりと

(元一宮・木曾川西小)

木村 博彦

退職して六年目を迎え、今ではすっかり家庭人としての生活が定着しました。四人の孫の世話を中心に家庭と地域に根を下ろして、現職の時とは違った忙

しさの毎日です。

まず、体力の衰えを少しでも防ごうとスポーツジムに入会し、週に二、三回筋トレや水泳で体を動かしています。

また、現職の時から始めた畑仕事では、退職後自分の愛車を軽トラに買い替え、耕運機や草刈り機、噴霧器などを買い揃え、妻と共に手探りで野菜を育てています。本年度は市が主催する農業塾に通って、名人の域を目指したいと思っています。さらに、趣味の幅を広げ生活に潤いを増やそうと、様々な事柄に手を広げています。男の料理教室、デジタル一眼レフカメラや天体望遠鏡、富士山から始め日本アルプスの山々を目指す山歩き、地域の仕事、さらには一宮市の発明クラブの指導、地元の小学校の見守り隊での活動……。

現職の時に比べ、活動の幅が広がり、忙しさが増しているような気がします。今後とも思いつくまま様々なことに広く浅く関わり、ゆつたりと楽しく幸せな生活が送れたらと思う毎日です。

五反田だより (事務局)

ある島での登下校時の一風景。子供たちが横断歩道を渡り切るとくるりと向きを変え、止まっている車の方を向いてぺこんとお辞儀をしている姿が放映されていた。

何とも言えない清々しい光景だ。運転席から「今日も元気でね」「お帰りなさい」の声が聞こえてくるような気がした。島では子供一人一人に温かい眼差しが注がれているに違いない。命の大切さをこのような形で日常の指導に生かしている学校の指導体制が見事だ。

近年、交通量の多い地域では高齢者のシルバーさん方が登下校の指導に当たる風景をよく見かける。

間もなく春の交通安全週間を迎える。子供たちと地域の人々が心の通い合う交通安全を通して日常的な行動様式が身につくことを期待する。

(MY)

◇1月

- 1 全連退会報24号発行
- 8 教育課題委員会
- 15 文部科学省予算説明会に参加
- 17 部長会、年間紀要編集会議
- 21 部長会、財務状況健全化検討会議
- 24 生涯福祉部会、全日中理事会で入会勧誘
- 31 やよい会

◇2月

- 3 部長会・年間紀要初校
- 7 第五回常任理事会
- 10 部長会、年間紀要再校
- 12 広報部会
- 13 全連小理事会で入会勧誘
- 17 全連退情報17号発行
- 17 広報部会
- 20 部長会
- 25 広報部会

◇3月

- 3 部長会
 - 12 第二回副会長会
 - 15 全連退会報215号発行
 - 16 教育振興部会
 - 19 部長会
 - 31 年間紀要発行
- 「教育の日」推進の変遷
— 20年の歩み — 発行

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3~5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は令和2年8月31日までです。

送り先 メール info@zenrentai.org
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

令和2年度の理事会及び総会の日が決まりました。
理事会 6月3日(水)
総会 6月4日(木)
会場 きゅりあん(品川区総合区民会館)

編集後記

○暖冬といわれながらも厳しく寒い日もあった今年の冬がようやく終り、春の季節が訪れました。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

○教育情報として、文部科学省の令和2年度予算案関係の記事を掲載しました。文科省の重点施策が読み取れます。

○地方の会報紙からの記事も多く転載させていただきました。ぜひご一読ください。○今回も皆様方のご協力で、原稿が予定通りの期日に集まりました。ありがとうございます。

全連退会報 (215号)

発行 令和二年三月十五日
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八
全国連合退職校長会
電話 〇三三四四二八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
Eメール info@zenrentai.org
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇
○責任者 入子 祐三
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三四三三三六二二